

幼稚園からのおもてなし
—七五三のお祝いをしま
した(本堂 十一月十五日)



くさばな しんぶん

2017年11月号

197-0802
東京都あきる野市草花3060
電話 042-558-3018
ファックス 042-559-3071



今年の紅葉はきれいですね。大行寺のサクラ、イチヨウ、モミジがそれぞれの色を思う存分披露しています。さて、十一月はさまざま行事がありました。そのうち園の遠足の考え方や趣旨については、下欄の「日々の保育から」に詳しく主任が書いていますのでお読みください。ここではそのほかの行事について触れておきます。

《芋掘り》
ことは野菜の成育が悪く、畑作物はどれも思うように育たなかったようですが、サツマイモも同様のようで、例年よりも収穫が遅れました。毎年、関田正幸さんが自分の畑を提供くださり、とっても貴重な体験をさせていただいています。土の中からほっこり頭を出して、ボクここにいるよ、掘ってくれるの待ってたヨ。格闘の末、やっと掘り出してみなにっこり。園児ひとりひとり持ち帰りましたが、どのようにして召し上がりましたか。

《脱穀—千歯こき—年長児》
年長のカリキュラムで、園十六日、やはり関田さんの「こく」をしました。先月鎌を園庭でしばらく天日干しをしたので、道具は「千歯(せ)に発明された古式ゆかしい道ほどの束を、櫛の歯のようにから挟み込み、エイヤッと引取られる原理です。こうしてすり」といってすり鉢とボウこれから精米して食べられる連の作業を通じて、日々口にする上で、おおきなヒントとな

《くさばなファミリーのロ》
おせいご参加いただきあ板づくりは例年好評です。思それぞれ記念品・思い出の品にお使いください。

《収穫祭(芋煮会)のため》
こしも調理体験のために煮会と呼んできましたが、実際に使う食材はエリンギ、厚揚げ、こんにゃくなども使うので、名をあらためました。みな三角巾を被り、包丁やピーラーなどを上手に使い、料理を体験しました。実は、刃物はこちらも緊張しますが、それでもおおむね順調に行きました。この体験は大事だと思います。経験をご家庭で発展させていただけたら、と思います。米作りも芋掘りも、そしてこれからの大根の収穫も、植物さまざまですね。

《サイエンス・ショー》
例年の親子観劇会は、こブ先生のサイエンス・ショはかわい組梨奈ちゃんやまツトさん。実は横田基地内のす。司会進行は奥さま。英語ない!、サイエンスだ!と、ら、身振り手振りを交え、表盛り上げてくださいます。ス・ショーでは、ドライアイス

の電気、さらに特殊な薬品験を披露していただき、最後1作りを教えてください、そ科学に親しんでもらおうと、ス・ショーをやっています原理を利用した楽しい舞台をがとうございました。園児の「くれたら嬉しいなと思います。」
《芝生のこ》
前のところで今年の秋の畑作の成育が良くないと言いましたが、芝生にとっても天候が同じように働いたようです。冬寒の育ちが悪くなかなか解禁できませんでした。あしかしもうやく二十日より遊べるようになりまし。それでも例年より強くないようなので、来夏までの芝生の場合は例年ほどは期待できそうにありません。それでも冬でもふかふかで足裏が温かいその感触を味わいながら転がったり寝たりして楽しんで買えたらと願っています。(十一月三十日記)



理事長・園長 山城 清邦

日々の保育から

主任教諭 影山 幸江

11月、遠足、芋掘り、収穫祭、草花ファミリーの日、親子観劇会などたくさんの行事がありました。それぞれの行事に際して、ご準備やご協力、ありがとうございました。おかげさまでいすれの行事も無事に終えることができました。

草花幼稚園では、遠足はお子様と保育者で行っています。保護者の方からは時々、親子遠足はないのですか?と質問されますが、お子さま達が普段とは違う場所、環境で友達や保育者と楽しく過ごす中で、公共の場でのマナーや集団行動、人との関わりなど様々なことを経験できるように、あえてお子さまと職員での遠足としています。今回は、楽しかった遠足の様子をお伝えしたいと思います。

《かわくみ》
公園に到着し、園内を巡回しているパークトレインに乗り、みんなの原っぱの近くにあるわんぱく遊具に行きました。大型遊具、小さいドーム型トランポリン、ブランコなど様々な遊具があり、友達や職員とたくさん遊びました。他の園のお友達や、一般の小さいお友達もいましたが、順番に並んだり、譲り合ったりする事が保育者の言葉かけや自分で気づいてできていました。お弁当の準備や片付けもできることは自分ですようとする姿が見られ、頑張っていました。帰りはさすがに疲れたようで、出口までの道のりがとても長く、職員に手を引かれてやっと出口に到着しました。それでも、春の遠足の時とは見違えるほどの成長に驚きと嬉しさを感じました。

《もりくみ》
もりくみは、園内の奥にあるこどもの森まで歩いて移動しました。初めに「虹のハンモック」という大きなネットがいくつも繋がっている遊具で遊びました。こちらも他の園のお友達がたくさんいましたが、自分たちで空いているところを探したり、ぶつからないように考えたりして動いていました。また、高いところの上るために友達の動きを真似したり、どうやって上ったかを聞いたりもしていました。次に移動した「ふわふわドーム」でも同じように遊ぶ姿が見られました。みんなの原っぱでお弁当、おやつを食べた後は、広い原っぱで担任とお子様走り回って遊び、身体をたくさん使って遊べました。最後にパークトレインに乗り、出口近くまで行きましたが、遊び疲れて寝てしまったお子さまもいました。尾崎先生の「もり組さん、集まりますよ」の声にサッと反応し、集まるのがしかりできていて、担任の声がお子さま達に浸透し、行動できていると感じました。

《やまぐみ》
やまぐみも、もりくみ同様に「虹のハンモック」からスタートしました。あつという間に高いところまで上がってしまい、一緒に遊んでいた小学生に負けにくいに動いていると感じました。ふわふわドーム、ドラゴンの砂山などでも遊び、かわ、もりくみがお昼を食べ始めた頃みんなの原っぱに戻ってきました。お昼の後は、みんなの原っぱや水鳥の池の前で遊びました。午後は遊具が無いところでの遊びでしたが、お子さま達が自分たちで考え、友だちと好きな遊びをしたり、保育者を交えてゲームをしたりするなどして楽しめていました。また、園内は歩きでの移動でしたが、保育者の後を付けてしっかりと歩くことができていました。帰りのバスでも寝てしまう子が少なく、幼稚園に戻ってきてから更にもうひと遊びして、お子様の体力にただただ驚かされるばかりでした。歩行力も付いてきて、ここでも少しずつ就学へ向けての準備ができていっているように感じました。

この様に、楽しい遠足の中で秋を感じ、たくさんの思い出を作り、充実した1日を過ごすことができました。

保護者会だより

足元を踊る色とりどりの落ち葉や風の冷たさに、晩秋の訪れを感じる季節となりました。11月は影山幸江先生と鈴木典子先生へのインタビューです。

影山幸江先生

Q. 双子のお母さんでもある影山先生。双子の子育てで楽しいこと、大変なことはなんですか?
A. 楽しいこと: 2人が仲良く遊んでいたり、同時に同じ発言をしたりすると双子だなあ…と実感します。そうした所で楽しさを感じます。
大変なこと: 双子とはいえ性格が全く違うので、それぞれの対処の仕方に苦戦することがあり、そうした時に大変さを感じます。

Q. 休日に簡単に作れるお昼ごはんを教えてください。
A. カレーピラフやシチューピラフです。レトルトのカレーやシチューのルーを使って作ります。簡単で意外に美味しいです(手抜きすぎず恥ずかしいですが…)

鈴木典子先生

Q. なかよし学級をされていて楽しいと思うことは何ですか?
A. ご参加頂いた保護者の方々とお子さまが笑顔でいること「楽しかった」とおっしゃって下さることが一番嬉しく思います。そして、お子さまの成長を感じる時に、この仕事をしていて子育てを頑張っている保護者の方のお役に立てればいつも思っています。

Q. 勤続10年以上とお伺いしました。昔と今の保育の違いを教えてください。
A. 今年で勤続13年です。まだまだ初心者です。保育の違いということですが基本的には変わらないと思いますが、例えば以前の手遊びは簡単なものもありましたが、今はお子さま達が音楽(曲)に合わせてリズムのあるものになったように思います。また絵本など絵柄のカラフルなものが多くなり、お子さまの楽しめるものが多くなったように思います。

お忙しい中インタビューご協力いただきありがとうございました。
担当: やま組 山崎 井上 ベネット 山本



